

編集後記

あいかわらずうっとうしい梅雨が続いています。皆さんは毎日忙しい日々を送っておられることでしょう。さて、**e-Magazine 第9号**をお届けします。今回も様々な角度からの貴重な論考が揃いました。詳しい内容はぜひ読んで頂いたうえで、ご判断をいただき、できればご批評をいただければ執筆者一同この上もない喜びと言えるでしょう。そこで、以下各論考の内容を詳しくは読んで頂くとして、簡単に触れておきましょう。

巻頭言で吉川紀夫氏(明星大学教授)は一見成功しているかに見える「アベノミクス」にもいくつかの問題点ないし見落とししている点があると指摘しています。それは何か。詳しくは是非、説得的な本文をお読みください。

2番目の論考は、北谷勝秀氏(NPO2050 理事長)がご執筆頂いたもので、アジアを超えてさらに幅広い観点からの地球や平和を守るにはどうすればいいか、などについて鋭い指摘をされています。詳細はぜひ本文を熟読していただくとして、簡単に以下の点だけを指摘しておきましょう。まず北谷氏は、世界平和を確立するには、環境を守り、貧困をなくす必要がある。それには命を生み出し、愛情やお恋遣り慈しみに満ちた女性の役割が重要だ。世界が平和になるには特に地位の低い、発展途上国の女性や若者を救うために教育や国際支援が重要だ。

3番目の論考は、譚暢氏と上原教授(本研究所副代表)の共同執筆による「中国の繊維アパレル産業の動向 産業内貿易と顕示的比較優位の相関分析の視点から」ですが、これは文字通り中国のアパレル産業に同行を産業内分業と顕示的比較優位との相関分析を通じて明らかにしようとの試みです。

4番目の論考は、当研究所代表によるものである。本稿は長文のものであるため、2回に分けて掲載されますが、簡単には以下の内容をもつものであります。アジアをはじめとする非西欧社会の経済発展は欧米社会へのキャッチアップ型の工業化によるものであるため、経済発展で高所得国になっても、やがてキャッチアップ型からの脱却に失敗すれば、長期の停滞に陥る可能性があるということを論証しようとするものです。その事例は現在のところ日本だけであるが、やがてアジア全体に拡大する可能性があるため、そのこと認識して、早めに手を打つ必要があるとの指摘です。詳しくはぜひ今回と次回を続けて読んでおただけると納得頂けるでしょう。

今回の「ニュースの裏を読む」は辻 忠博(日大経済学部)教授の執筆によるもので、最近めきめきと関心を強めつつあるアフリカ経済と日本の対アフリカ援助について考察するもので、本文を読んでいただければ、最近のアフリカ経済の動向がより深く理解できるものとなっています。「ニュースの裏を読む」は多くがアジアで起きている重要な問題を取り上げ、より深く理解していただくために、ニュースの裏を考察し

分析するものですが、今回はアフリカを取り上げました。今後もアジアからアフリカおよび中南米にまで視野を広げていくつもりです。

以上の論考を読んで頂いて、現在のアジアを初めアフリカなど発展途上国の動向の一端を読み取っていただければ幸いです。まだまだうっとうしい日々が続きます。梅雨が明けますと、暑い太陽が照りつける真夏がやってきます。どうぞ体調に気を付け、暑い夏を乗り越えていただければと祈念しております(朽石)。